

2017年12月19日

（仮称）健都プロジェクトチーム（推進室）創設について

○松本暁彦議員

続いて4点目の質問です。（仮称）健都プロジェクトチーム（推進室）創設についてですが、本市における健都の意義は、前定例会において、住民の健康寿命の延伸、産業の活性化、健康のまちづくりとして全国発信の3つがあり、健都は本市の発展にとって非常に重要であるとの答弁で認識しております。

私は去る11月23日に、後藤吹田市長及び春藤同副市長の健都へのお考えを聞く機会がありました。そこで、健都は、吹田市と摂津市とで連携しなければならない。市域を超えた取り組みが必要で、協力しなければいけないと言われておりました。

また、国立健康・栄養研究所も健都イノベーションパークに来ます。国立循環器病研究センターとあわせて、2つの国の機関がこの地に来る。相当に国も力を入れています。

そこで、健都という国家プロジェクトの中における本市の役割、責務について、どうお考えかお聞かせください。

また、大阪府の取り組み、本市への期待することについても、ぜひお聞かせください。

○藤浦雅彦議長

保健福祉部理事。

○平井保健福祉部理事

健都における本市の役割、責務及び大阪府の取り組み、本市への期待についてのご質問にお答えいたします。

健都のまちづくりは、国立循環器病研究センターを中心に、国、大阪府、吹田市、本市の行政機関に加えまして、経済界や医療関係者など、さまざまな分野の関係者が一体となって進めております。

また、健都は本市と吹田市にまたがる地域でございまして、地元自治体である両市が1つの方向に向かい、まちづくりをともに進めるといふ、全国でも例を見ない取り組みであることから、両市が連携を密にし、また、中心となって取り組むことが健都のまちづくりの成功の重要な要素であると認識しております。

なお、大阪府におかれましては、政府関連機関である国立健康・栄養研究所の健都への誘致や、不動産取得税や法人事業税等の軽減等が適用される大阪府成長特区に健都を指定するなど、健都のまちづくりが大阪、ひいては関西圏の産業が発展する取り組みとして大いに期待するあらわれであり、今後も引き続き、健都イノベーションパークへの企業誘致などを中心に連携して取り組んでいただけるものと認識しております。

○松本暁彦議員

続きまして、（仮称）健都プロジェクトチーム（推進室）創設についての2回目の質問をさせていただきます。

先ほどの答弁にて、健都のまちづくりにおける本市の役割、責務について理解いたしました。本市の「健康・医療のまち」の実現とあわせて、国家プロジェクトとしての成功の重要な担い手の1つであると認識しました。

なお、現在も諸機関と健都のまちづくりにおいて連携されていますが、具体的に実施している事業、もしくは協議されている事業があればお聞かせください。

○藤浦雅彦議長

保健福祉部理事。

○平井保健福祉部理事

健都で具体的に実施している事業等についてのご質問にお答えいたします。

健都のまちづくりの取り組みの1つとしまして、健都の地権者等で構成されます北大阪健康医療都市連絡調整会議を設置しており、現在は、健都のPRの取り組み等を中心に活発な議論を行っているところでございます。例えば、健都ポータルサイトでは、まちづくりの進捗状況に加えまして、各主体が実施するイベント情報等をイベントカレンダーとして適宜掲載することや、PRパンフレットの作成、また本市と吹田市が共同で健都でのウォーキングイベントを実施するといった取り組みを行っております。

健都のPRにつきましては、今後もさまざまな手法を通じ、積極的に発信していくことを目指しており、例えばポスターの作成や、各主体のオープンに合わせたイベントの開催等について、議論しているところでございます。以上でございます。

○藤浦雅彦議長

松本議員。

○松本暁彦議員

しっかりと取り組まれていることを理解いたしました。健都ポスターは関係諸機関と緊密に連携して、ぜひ実行していただきたい。

先ほどの質問での増収施策、シティプロモーションの魅力にも健都は合致し、本市として、この健都施策を一層推進する必要があるかと思えます。

しかしながら、現状において、健都の各政策が部署ごとで行われ、統一性がなく、企業誘致も停滞、有効に行われている政策もPR不足、そして、吹田市の北大阪健康医療都市推進室のような健都政策の顔となる組織がなく健都窓口が不明瞭と、健都の成功及び本市の意義を達成するためにはまだまだ不十分な体制かと思えます。健都イノベーションパークへの主導的な企業誘致、国立循環器病研究センターと連携した効果的な取り組みとPR

のため、また、今後さまざまな健都関連諸施策を統制し、かつ10年、20年へと続くプロジェクトを継続して行うため、それなりの体制が必要ではないでしょうか。

そこで、例えばですが、健都関連政策を統括して計画を運用し、関係諸機関の窓口の一本化、長期的な政策を実現し、健都政策の顔となり頭脳となる組織として、部署間の横断的なプロジェクトチームからなる（仮称）健都プロジェクトチーム（推進室）の設置について検討はできませんでしょうか、お聞かせください。

○藤浦雅彦議長
保健福祉部理事。

○平井保健福祉部理事
（仮称）健都プロジェクトチームの設置の検討についてのご質問にお答えいたします。
健都のまちづくりにつきましては、本市が目指します健康寿命の延伸、市内産業の活性化など、健康・医療のまちとして発信につながる最も重要な取り組みの1つであり、それを進めていくための体制のあり方につきましては、議員からのご提案も参考にしつつ、効果的・効率的な観点を十分に踏まえまして、関係部署とも議論してまいりたいと存じます。以上でございます。

○藤浦雅彦議長
松本議員。

○松本暁彦議員
ありがとうございます。ぜひ、ご検討ください。
さて、11月23日の後藤圭二吹田市長の健都の熱い思いを市長もまたお聞きされたかと思いますが、ぜひ、市長の健都へのお考えをお聞かせください。

○藤浦雅彦議長
市長。

○森山市長
松本議員の質問にお答えをいたします。
まちづくりのイロハのイといいますか、これは、まずは市民の皆さんの安全・安心、そして、健康づくりだと思います。そういう意味から申しましても、今般、国立循環器病研究センターを中心に、新たなる健康づくりがスタートいたしますことは、非常にうれしいことであります。これを機に、予防医療日本一を目指して、またしっかりと健康づくりに取り組まなくてはならないと思っています。少し、この間の経緯等々についてお話をしておきたいと思います。もともと、吹田操車場跡地のまちづくり、これは、吹田市、摂津市それぞれが将来の夢づくりの絵を描いてスタートいたしました。ただ、関西に残された最

後の最大の空地、これをいかに生かすべきか、ただ、吹田市、摂津市だけの問題ではない。大阪全体、ひいては関西の将来の発展につないでいこうということで、それぞれの描いていた絵を、もう一度、一から見直そうということで、吹田市と摂津市と一緒にまちづくりに取り組もうということになり、プロポーザル等々からいろんなご提案をいただいたことを思い出します。

そんな中で、突如として、世界的な経済恐慌に見舞われてしまいました。いわゆるリーマンショックだと思います。リーマンショック、全国的に全てととってもいいですが、開発がストップしてしまって、デベロッパーも撤退してしまうと。そういう異常事態があったのですけれども、そんな中でせっかく描いていた絵が白紙状態になってしまいました。世の中いろいろありまして、当初、想定していないことが、その後、また起こったといえますか、それが藤白台にある国立循環器病研究センターの建て替え移転問題でございます。これを真っ先に取り上げ、目をつけたのが摂津市だと思います。よし、これを何とか誘致しよう、このまちづくりの中核施設にしようではないかということで、当時の吹田市長と一緒に夜討ち朝駆け、こんな言葉がいいのか悪いのかわかりませんが、国立循環器病研究センターの当時の理事長に、何度も何度も繰り返し要望をした経緯がございます。結果的に、利便性、安価な土地、そして、将来の建て替え用地の確保等々、いろいろ条件が合致したこともあります。あの地を国立循環器病研究センターの移転先として決めていただきました。

これは摂津市にとっては、大きな出来事でございます。国立循環器病研究センターの移転が決まり、今、その工事が順調に進んでおるようでございますが、以来、もう既に摂津市には国立循環器病研究センターから医者がどんどん派遣をしていただいております。また、全国で初めて、「摂津市STOPMI キャンペーン」、これの啓発運動のキャンペーンがスタートいたしました。今までにない新たなる健康づくりのイベント等々が展開されております。いろいろご指摘がありましたけれども、今後、さらにこの国立循環器病研究センターを中心に、吹田市、摂津市、また関係機関、団体と力をあわせて予防医療日本一、これを目指してしっかり取り組める環境が整ってきたわけでございます。

健康・医療はもちろん産業振興も含めて、摂津市のまち、健康づくりを頑張っているぞと、そういうまちづくりをしっかりと発信してまいりたいと存じますので、また、どうぞご指摘をいただきたいと思います。以上でございます。

○藤浦雅彦議長
松本議員。

○松本暁彦議員

市長の心意気を聞かせていただきました。ありがとうございました。

なお、先に述べました健都プロジェクトチームの最大の利点は、設置により本市の健都への本気度を明確にあらわすことができます。それにより、市職員の健都への取り組み意欲と関係諸機関の本市への期待度を向上させ、本市が核となって健都のまちづくりを実現

する。一例ですが、健都の会議で健都プロジェクトチーム（推進室長）と保健福祉部理事の肩書のどちらが相手によりよい印象と信頼感を与えることができるでしょうか。小さな一つ一つの取り組みが重なって、大きな動きを呼び起こします。

地方自治法第2条に、「地方公共団体は、常にその組織及び運営の合理化に努める」という一文がございます。市長の言葉を実現するための最良の手段として、本市にとってよりよい健都実現のためにも、健都プロジェクトチームなる組織は必要です。ただし、これが一、二年後では時期を失うことになります。本市への期待度が高く、主導できる政策の余地がまだまだある今こそ、効果が大なのです。ぜひとも、速やかな設置を要望いたします。以上でこの質問を終わらせていただきます。